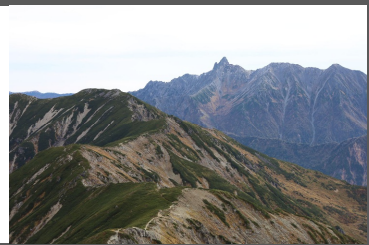


日本百名山 登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です



vol.36 岩手山(日本百名山 46/100)

登山で一番怖い自然現象は何か？ 人それぞれ意見はあるでしょうが、私にとって一番怖いのは風です。過去、何度か立ってられないくらいの暴風や暴風雨を経験してきました。登山をされない人には想像することは難しいでしょうが、台風の中継でアナウンサーが「前を向くことが出来ません。」みたいな事を言いますが、あの程度なら普通にあります。前に進めない、耐風姿勢をとっても身体ごと持っていかれそうなシーンは、独立峰や高山の稜線歩きなどをしていれば誰でも経験することだと思います。では、そんな中では歩けないのでは？と思われるかもしれませんが、風は常に一定の風速で吹いている訳ではありません。台風で風速30m/Sといっても風が穏やかな瞬間もありますし、それ以上の場合もあります。調べれば色々書かれていますが、登山では平均風速15m/S以下、最大瞬間風速20mぐらいまでが一つの目安です。但し、ここに地形などの要因が加わります。一瞬で身体を持って行かれて、即滑落、死亡のような場所もありますし、砂や石、氷が飛んできて前を向けなくなるような状況もあります。また、風速1m/sにつき体感気温は1℃下がると言われていますので、低体温症にも十分な注意・対策が必要となります（真夏でも低体温症により死亡したケースはたくさんあります）。

また、次に怖いのは雷および深い霧・吹雪による視界不良です。実際に、落雷で亡くなられた方もいますので、夏山で早出早着が基本なのは、まさに雷（夕立）対策です。また、霧や吹雪については、道迷いやそれによる滑落の誘発、それにプラス吹雪では低体温症などとなります。

いずれにせよ、自然の前では人間は無力であるので、「せっかく遠くから来たから」ではなく、常に安全を意識し、勇気ある撤退を出来る心を持ち続けたいものです。



10月中旬ですが、寒気到来で雪化粧した岩手山（焼け走り溶岩流より撮影）

さて、今回登った岩手山（標高2,038m）ですが、岩手県の北西部に位置し、二つの外輪山を持つ成層火山です。また、青森県から栃木県にかけて南北に約500km延びる日本最長の脊梁山脈である奥羽山脈の最高峰でもあり、那須火山帯にも含まれています。

この東北の名山は、地元 岩手県出身の石川啄木や宮沢賢治など多くの偉人が歌に読んでいます。

また、日本百名山の著者 深田久弥は以下のように記しています。

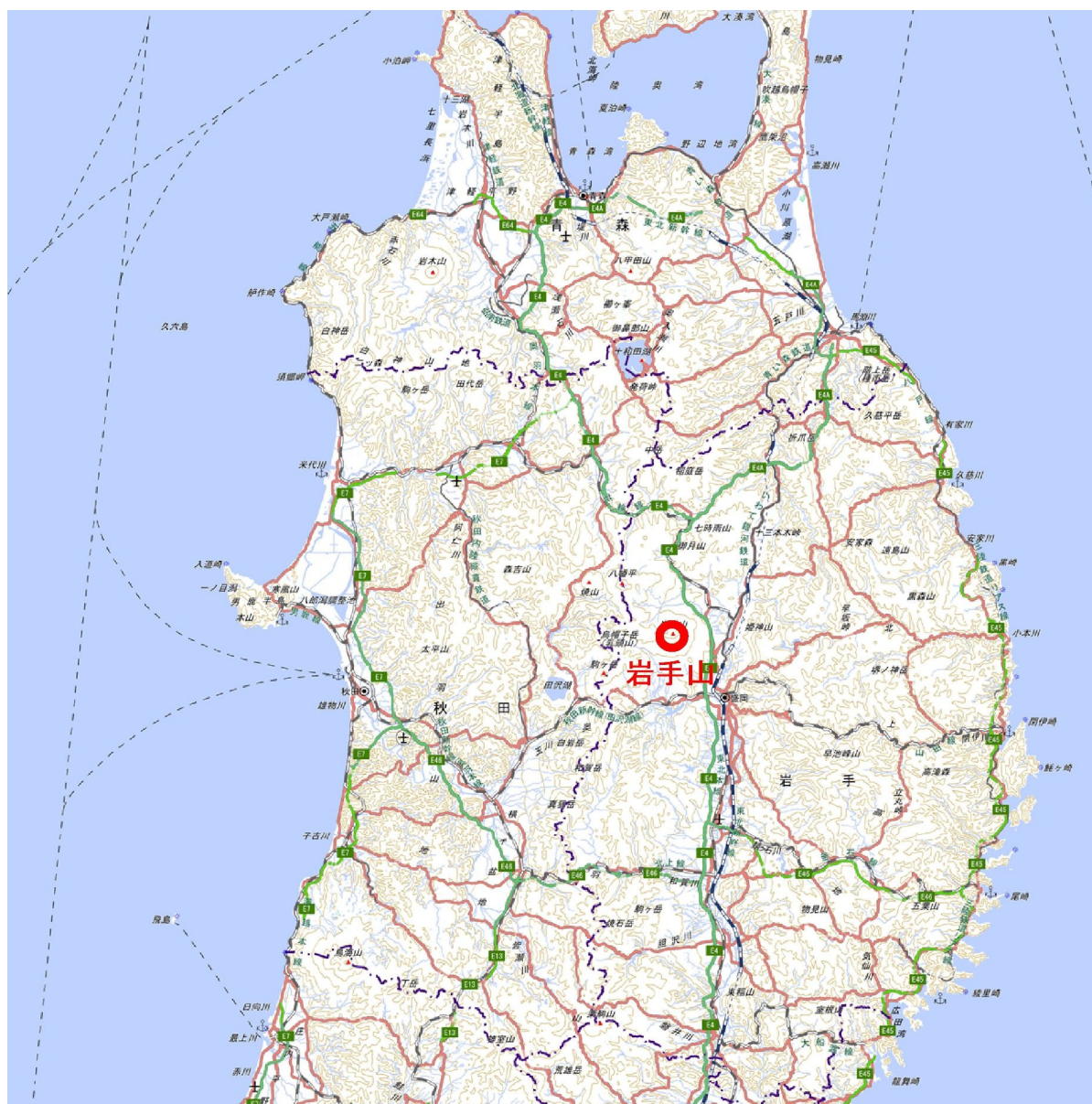
「岩手県が生んだ幾多の人材、それらの精神の上に岩手山が投影せずにはおこなかつたろう。雄偉にして重圧、東北人の土性骨を象徴するような山である。かつての名門盛岡中学の少年たちは、これを仰ぎながら学び且つ遊んだ。石川啄木もその一人であった。後年流離の生活を送った彼の眼底には、いつも北上川の岸边から望んだ岩手山の姿があったに違いない。盛岡の風景は岩手山によって生きている。

一つの都会に一つの山がこれほど大きく力強く迫っている例は、他にはないだろう。」原文まま

「ふるさとの 山に向ひて言ふことなし ふるさとの山は ありがたきかな」石川啄木

また、宮沢賢治は、盛岡中学に入学してから岩手山に30回以上も登山したと言われ、彼は岩手山や岩手山周辺を舞台とした詩、童話、散文作品を数多く残しています。

「岩手山 いただきにしてましろなる そらに火花の 湧き散れるかも」宮沢賢治



ヤマップ地図より転記

では、今回の遠征について報告します。

岩手山への登山ですが、飛行機を使い二泊三日で計画しました。さすがに東北北部地域へは、車移動では時間がかかりすぎます。良い事に、福岡空港から岩手花巻空港まではJALの直通便が飛んでおり、福岡空港11:40の便に乗れば、13:30には到着です。（残念ながら、それより早い直通便は今のところありません）そこからレンタカーを借りて盛岡市方面を目指すのですが、盛岡市のビジネスホテルの多くは町の中心地にあることから、駐車場が立体駐車場など出し入れが不便な所が多いため（山に行くために早朝に出たいのだが、立体駐車場では出庫時間に制限がある）、盛岡市の少し南、矢巾町に宿を取りました。登山をする場合の宿は、早朝に出発できるようビジネスホテルか山荘が基本です。旅館で朝ご飯をゆっくり食べるような時間はありません。

空港から宿までは約40分、チェックインの時間までは早いので、道の駅や近所のスーパーなどを巡り、地元の食材を見て回ります。リンゴやぶどう、キノコ類、鮮魚コーナーではサンマの刺身やホタテに毛ガニ、ソイなどの寒流系の海の幸が並びます。登山での訪問ではあるのですが、やはり知らない土地を直接肌で知ることは非常に楽しく、また温泉や食事も満喫したいものです。

当日はビジネスホテルでしたので温泉ではなかったのですが、フロントで近所のお勧めの居酒屋を聞いて、地酒とご当地名物を堪能しました（翌朝が早いので、開店と同時に入店しすぐに帰ります）。普段の登山は車中泊ですので、晩御飯はコンビニ弁当で済ませていますが、たまには飛行機で行くこのような登山も良いものです。



登山データ：距離 13.0km 累積標高上り 1,480m 登山区分 日帰り（ヤマップのデータを転記）

さて、翌日は2時に起床、3時前には宿を出発します。途中でコンビニに寄り、1時間ちょっとで登山口のある焼走りに到着しました。

ただ、この頃から晴れ予報だった天气が冷たい雨に変わりました。山口県の朝の最低気温が20℃くらいの時期でこちらは7℃（翌朝、ホテルを出た時は3℃でした）。登山するにはちょうど良い気温ですが、山頂付近の気温は-5℃予想でしかも強風。駐車場には登山者の姿は無く（出発寸前に地元高校の山岳部が集団でやって来た）、テンションはだだ下がりです。しかしながら、ここで止めるわけにもいかず、まだまだ真っ暗闇の雨の中、安全第一を念頭に4時50分にスタートします。

ここは東北、奥羽山脈のど真ん中、周辺では熊の目撃情報や人身被害が多数報告されていることから、熊よけの鈴を鳴らしながら歩を進めます（熊撃退スプレーは飛行機に持ち込み不可の為、持参せず）。怖くないと言えば嘘になりますが、それでもなぜか歩きはじめると恐怖よりも初めての山にワクワクする好奇心が勝るのは何故でしょうか？（いずれ熊に襲われてしまいそうです）



焼走り登山口



付近は静まり返っており動物の気配は感じません

真っ暗闇の中を歩を進める事、約1時間。ようやくヘッドライト無しで目視できるようになってきました。こうなると、ペースは上がります。と言っても、岩手山は富士山と同じ成層火山、要するに麓は緩いが、登れば上るほど勾配はきつくなっていきます。

但し、気温が低いので身体は良く動き、ペースも問題なし。また、雨もいつの間にか上がっていました。標高1,200m付近を過ぎると、周囲の視界が開けてきて、ガスはあるものの八幡平市や遠く東北北部の山々が見えてきました。心配していた風も、登山道が風裏に位置する事もありまったく問題ない状況で、気持ち良く登山ができます。また、標高1,500m付近からは薄っすらと雪景色、今年初の雪化粧した登山道に満足です。しかしながら、登るにつれ雪はやや増え、また風もだんだんと厳しくなってきました。



落葉していますが気持ち良い登山道です



焼走り溶岩と八幡平市方面



山頂は遥か上、雪化粧しています



標高を上げるにつれ、少しずつ雪が出てきます

午前8時、平笠不動避難小屋に到着、ここまで登山者には誰も合わず、一人静かな山歩きです。

但し、この時点で気温は氷点下、風も強い事から避難小屋でハードシェルにネックウォーマー、冬用の手袋（厳冬期用ではない）を装備し、準冬山仕様に整えました。

さて、ここからが本日の登山の核心部です。距離は約1km、標高差250m程度なので、通常の登山であればまったく問題ないレベルですが、ここからは完全な風表となり、また遮るもののまったくない外輪山上では側方からの風で身体ごと持って行かれる可能性もあります。

再度気を引き締め、最後の上りをスタートします。

外輪山到達までの道中は想定の範囲内の風速、また雪もそこまでではありませんでした。しかしながら、稜線に出た途端、怖さが先行するほどの暴風、しかも周りは真っ白。まあ、それでも安全は確保できる範囲なので進みます。過去の経験が生きていると感じた瞬間でもありました。

午前9時8分、凍てつくような岩手山の山頂に無事到着、気温は-4℃、山頂標識はまさに厳冬期のそれをイメージさせる感じでしたが、風さえなければ見た目ほどさほど寒くない状況です。

ただ、周囲には誰もおらず。ここで何かあったら助からないだろうなどと呑気に思いながら、写真だけ撮ってさっさと下山します。



避難小屋手前は緩やかで快適な登山道



避難小屋に到着し、ちょっと食事休憩

この頃から、小康状態であった雪が一気に降ってきて、頭やザックに積もり、登山道も一気に真っ白になってしまいました。

そんな中、朝、駐車場で見かけた地元高校の山岳部10数人とすれ違い、なんとなく心がホッとしました。ただ、頭に雪の積もった女子部員の疲弊した顔や軍手で登山している男子学生を見て、「大丈夫な

のか？」と思ったのと同時に、東北人魂のようなものを感じた瞬間でもありました。

（後で調べたら、インターハイ（登山）に出るような子たちで、心配は無用でした。）

その後、若者8名（弘前大学の登山グループと言っていた）、そして女性2人組（高校の顧問の先生の話では、撤退したらしい）とすれ違った以外は、誰にも会わない本当に静かな山行でした。



ここを登り切れば外輪山



振り返って、周囲に誰もいない



外輪山は吹きっさらし



山頂は目前ですが北西（左側）からの強風に苦戦



岩手山山頂に無事到着



三角点はガチガチに凍っています

12時ちょうどに無事下山。駐車場に戻った後、焼走り溶岩を見学していたりしていると、高校の山岳部の学生たちも無事に下山してきており、顧問の先生に挨拶、楽しく世間話をさせていただきました。



下山時、本格的に雪が降ってきました



登山口近くまで下りてくるとなぜか晴れ

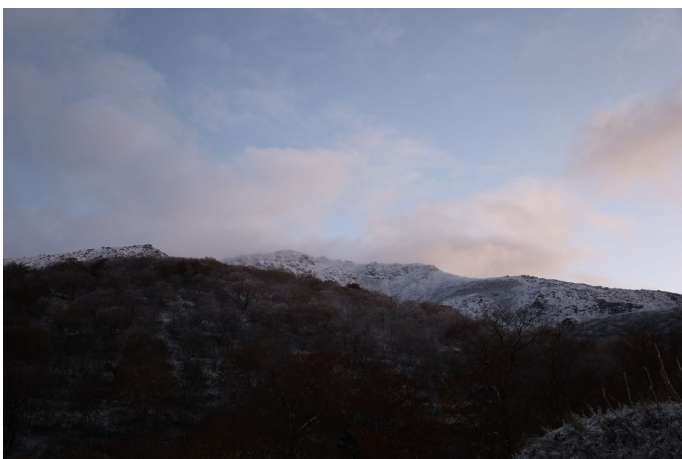


焼走りの溶岩流、壮大な風景です

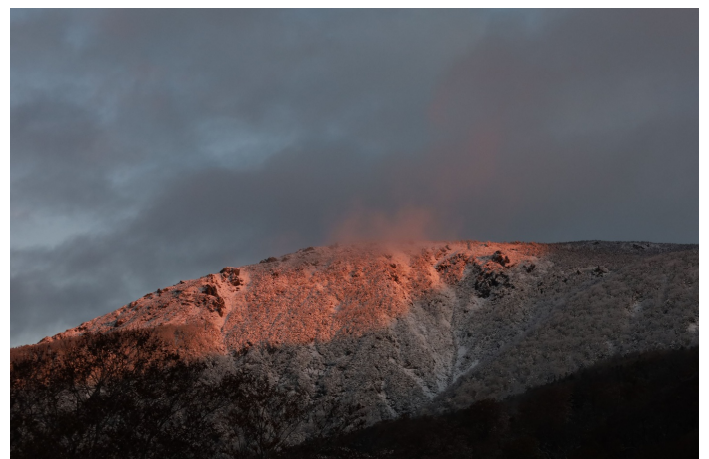


雪景色と紅葉が見れて得した気分

当日は、午後から八幡平に行く予定でしたが、残念ながら道路の凍結により通行止めという事で中止。翌日は朝3時に起床し早池峰山に向かいましたが、登山口への道路は雪、駐車場付近は凍結と昨日よりも厳しい状況（レンタカーは既にスタッドレスを装着）、しかも風がとんでもなく強く、駐車場には人影は無し。とりあえず目視できる明るさまで待ってみると、目の前の早池峰山は雪で真っ白、たぶん岩場は凍結していると考えられるような状況です。距離が短いので行って行けないことはないとも思いましたが、このような状況では登山ペースは落ちるので、帰りの飛行機に間に合わない可能性も考えられ、また、そもそも凍結した岩場と暴風では十分な安全を確保できないと判断し、登山を中止しました。ちなみに、目測（実際にストップウォッチで雲の流れを定点観測してみた）で30m/s 近い暴風でした。駐車場の気温は-3℃、近くの温泉で朝からのんびりと身体を温めた後、岩手花巻空港より帰宅しました。



早池峰山の山頂方向を望む



早池峰山の主稜線のもるげんロート